

研究余話Ⅲ 薬師岳に奉納された模造剣について

小林 高 範 (埋蔵文化財センター主査学芸員)

はじめに

富山市南東部に位置する薬師岳(第1図)は標高2,926m、夏場は多くの登山者で賑わう人気の山岳地である。山麓の有峰村(大正10年ダム建設のため解村)の人々にとって、薬師岳は古くから信仰の対象であり、毎年旧暦6月5日に15歳から50歳までの男子が総出で頂上の祠に参詣した。

承応三年(1654)の祈願文によると、願い事のある者は3年に一度剣を奉納したことが記されている。昭和30年代まで山頂の祠前には奉納された鉄製の模造剣がうず高く積み上げられ、錆びた小山のようになっていたが、その後は登頂記念として大半が持ち去られている(深田1964・広瀬1976など)。多くの模造剣が奉納されたのは薬師岳信仰の一つの特色であり、今回は研究の一助となるよう模造剣の類例を幾つか紹介したい。

1 これまでの模造剣についての報告など

薬師岳の奉納模造剣については、広瀬 誠氏の論考(広瀬1976)などから、四・五寸大、七・八寸大、一尺以上と大小あり、分厚いもの・薄いものなど様々な種類のものがあつたとみられる。

形態の分かる事例としては、戦前に薬師岳へ登った加藤泰三氏が持ち帰った3点の模造剣のうち2種を版画による挿絵で紹介している(加藤1956 第2図)。

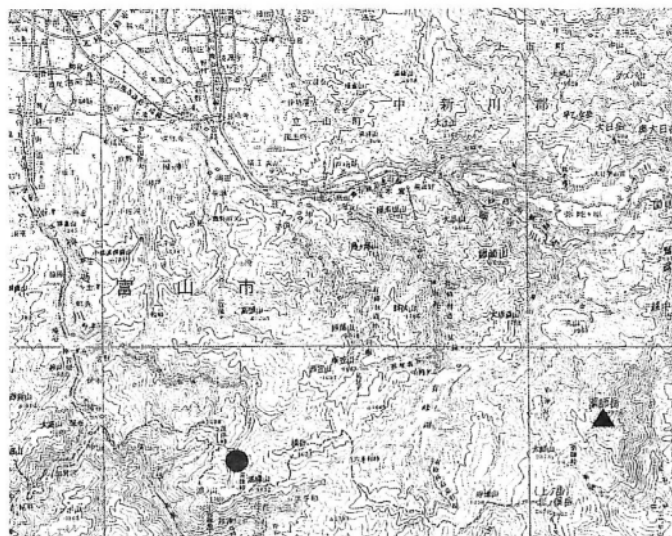
近年では、県内の山岳地を数多く巡っている佐伯哲也氏が、薬師岳山頂でこれまで採集した雁股鍬、火打鎌、釘、陶磁器などと共に模造剣について報告している(佐伯2005)。また、富山市教育委員会埋蔵文化財センターが平成22年秋に行った薬師岳山頂周辺の分布調査でも6点の模造剣の破片を採集している(本書 調査概要報告10)。

2 大山歴史民俗資料館所蔵の鉄製奉納模造剣について(表・第3図・写真)

大山歴史民俗資料館には薬師岳資料3点、そのほか関連するものとして旧大山町長棟村(第1図、現在は廃村)弁天社に奉納された資料3点の計6点があり、実測・拓本等の資料化を行った。

①薬師岳資料(1~3)

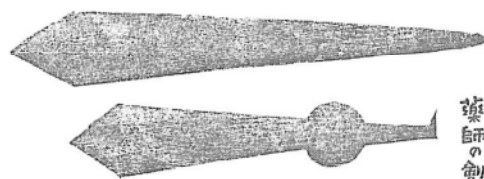
薬師岳山頂祠への有峰村民による祈願奉納品とされている。ただし、資料の旧所有者や資料館への来歴など詳細は不明である。1は細身の中型品で、柄の端部に表裏から孔が2ヶ所あけられ、上部に「ヨヤ」の刻字がみられる。2は厚みのある細身中型品で、丸く曲げられた柄の表面にはタガネによるパンチングがなされ、細身剣身上部に「会長 和澤清吉」の刻字がみられる3は長さ70cmを越え



第1図 位置図(S=1/200,000) ▲は薬師岳、●は旧長棟村

No.	長さ	幅	厚さ	重さ
1	45.2	4.5	2.5	240
2	48.2	7.9	9.0	730
3	73.8以上	12.6	2.5	680
4	31.7	6.3	2.0	120
5	37.0	8.1	2.5	210
6	33.6以上	8.1	2.0	160

表 法量(長さ・幅cm、厚さmm、重さg)



薬師の剣

第2図 挿絵の模造剣(加藤1956より)

る細身の大型品で、柄は欠損している。

②旧長棟村資料 (4~6)

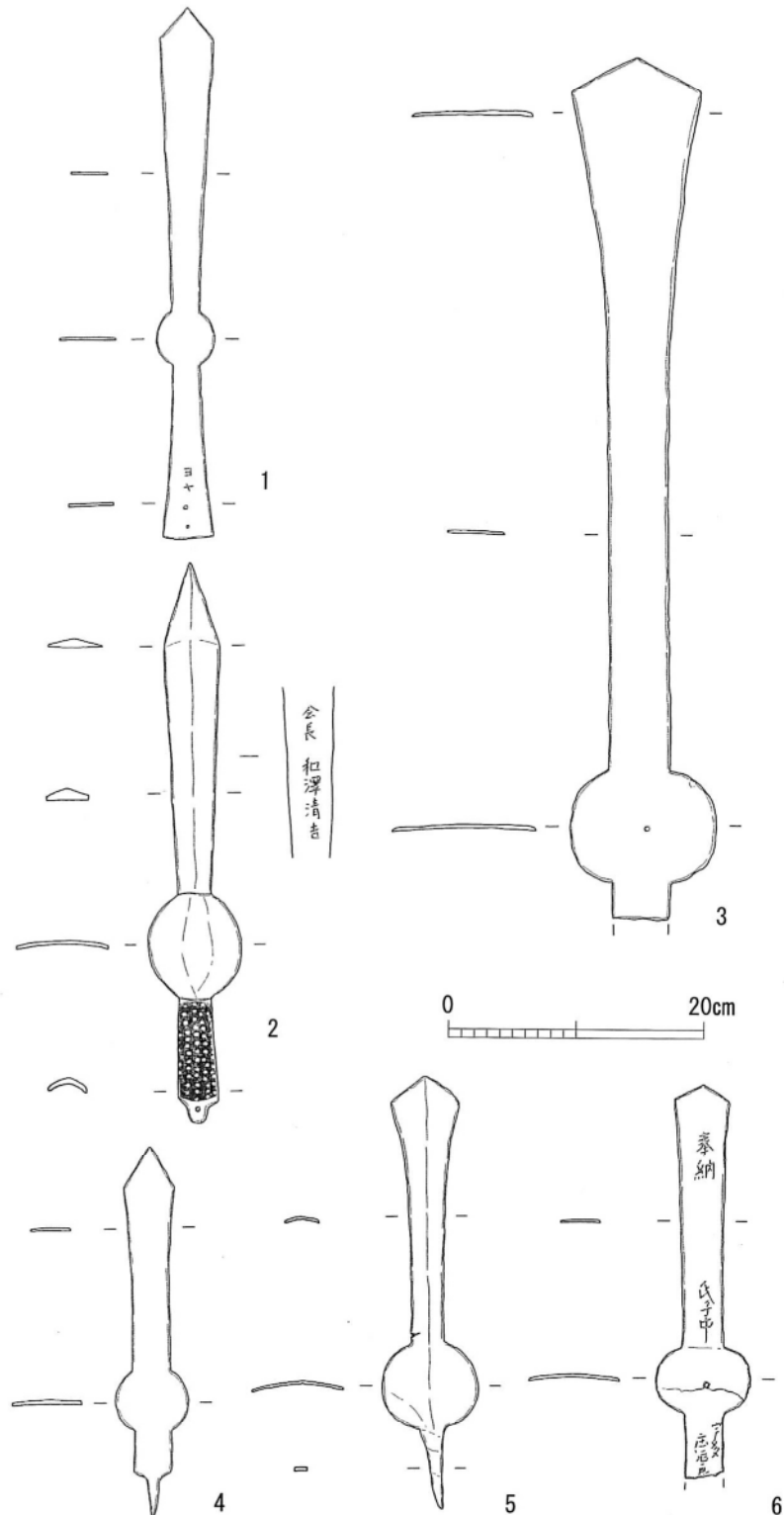
天明八年 (1788)・文化六年 (1809)・天保十二年 (1841) など江戸後期の棟札 5 枚と共に平成元年 11 月、資料館に収蔵された資料である。4 は幅広の小型品で、やや反った状態である。5 は細身の小型品で、裏側中央に筋を入れ、への字状に折り曲げている。6 は幅広の小型品で、柄は欠損している。剣身の上部に「奉納」、下部に「氏子中」、柄に「口多カ 庄治良カ」の刻字がみられる。

3 若干の考察

作りの点からみると、資料の大半は厚さ 2mm 程度の薄い鉄板を打ち抜いたような模造剣である。2 だけは厚みがあり、剣身の断面が三角形に近い状態で、刻字からみて明治以降の比較的新しい時期の製作品とみられる。形態としては、1 は柄が長く、4 と 5 は差し込み部が細長く伸びるなど一様ではない。また剣身も幅広と細身のものがあり、構成要素を組み合わせることで類型化できそうである。時期としては、有峰村下方家に所蔵されていた承応三年の祈願文から、江戸初期には既に信仰奉納品として模造剣を製作していたことが明らかであ

り、江戸時代を主体として明治末期頃までに製作され、奉納されたものと考えられる。

薬師岳以外の周辺山岳地でこのような模造剣が見つかった例としては、大汝山山頂 (広瀬 1976)、浄土山山頂 (宮田 2009)、芦峯寺室堂遺跡 (酒井 2009) などがあるが、いずれも 1 点、あるいは数点という程度である。山のように積まれた薬師岳の奉納例はかなり独自性が強いものと感じられる。



第3図 奉納模造剣実測図 (S=1/6)

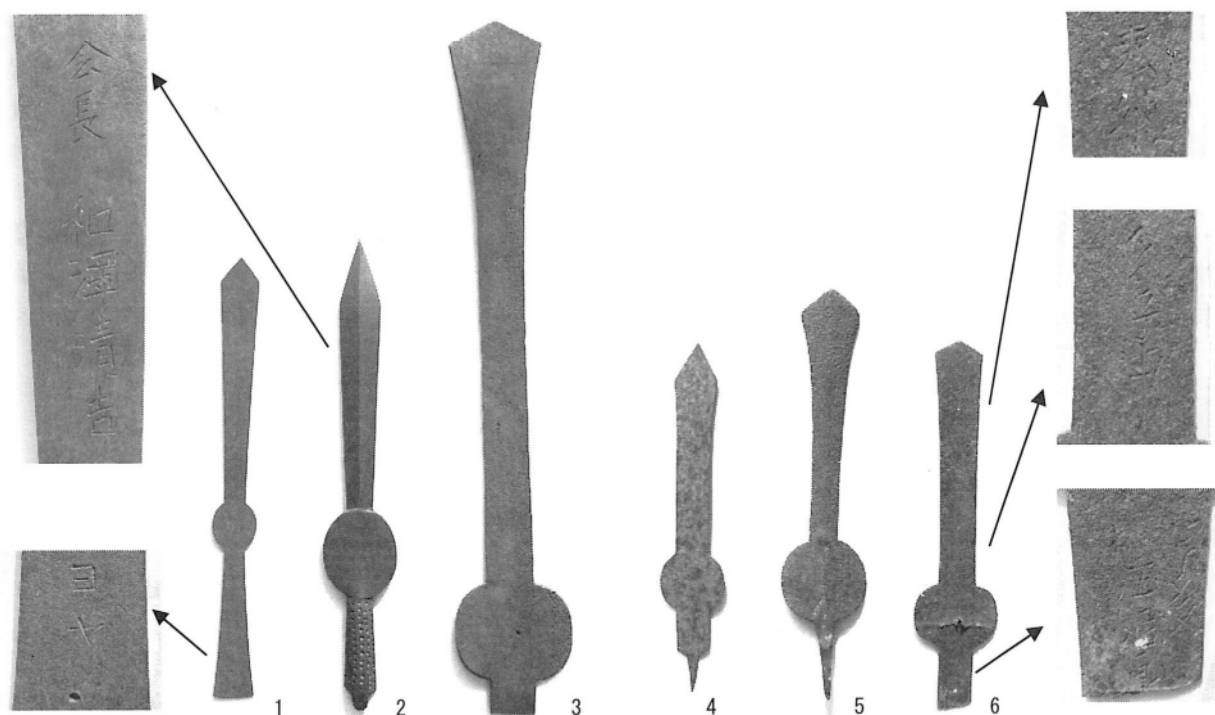


写真 薬師岳資料、旧長棟村弁天社資料

有峰村民による薬師岳信仰の様相の一端が、奉納された模造剣にあらわれているといえるだろう。なお、模造剣は地元で作られたものではなく、飛騨の野鍛冶に注文して打たせたとの話もあり、飛騨や信州など近隣山岳地の動向についても考慮しておく必要がある。

おわりに

大山地域では、ほかに牧野の東薬寺や個人所有の奉納模造剣の所在情報を得ていたが、実物を確認していないため、今回は触れられなかった。佐伯哲也氏が採集された薬師岳山頂資料も含めて、今後検討していきたい。また、旧長棟村弁天社資料を同型の奉納品として捉えたが、山岳信仰と神社奉納の在り方なども課題である。

引用・参考文献

- 加藤泰三 1956 『霧の山稜』 朋文堂（1941 初版本の再版）
- 佐伯哲也 2005 「大日岳及び薬師岳で採集した遺物について」『大境』第 25 号 富山考古学会
- 佐伯哲也 2007 「山頂採取遺物から推定する山岳信仰—大日岳及び薬師岳の山頂採取遺物から—」『日本海文化研究所公開講座平成 18 年度記録集 山からみた日本海文化Ⅱ』 富山市日本海文化研究所
- 佐伯哲也 2010 「薬師岳山頂の信仰遺跡について」『大山の歴史と民俗』第 13 号 大山歴史民俗研究会
- 酒井重洋 2009 「芦峯寺室堂遺跡」『第 22 回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の山岳信仰』 北陸中世考古学研究会
- 広瀬 誠 1976 「薬師岳の信仰と有峰びと」『山岳宗教史研究叢書 10 白山・立山と北陸修験道』 名著出版
- 深田久弥 1964 「薬師岳」『日本百名山』 新潮社
- 前田英雄編 2009 『有峰の記憶』 桂書房
- 宮田進一 2009 「立山」『第 22 回北陸中世考古学研究会資料集 中世北陸の山岳信仰』 北陸中世考古学研究会